

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	保育原理		
必修選択	選択	(学則表記)	保育原理		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	医療保育科	2	30
使用教材	保育原理		出版社	近畿大学九州短期大学	

科目の基礎情報②

授業のねらい	保育者に求められる保育の意義や内容、子どもや家庭との連携、保育の史的変遷、これからの保育のあり方などの理解を通して、保育者としての責務や愛情について考える				
到達目標	保育の意義・内容・方法、保育者の専門性を理解するとともに、保育の現状と今後の課題を把握する				
評価基準	テスト：50% 課題：30% 授業態度：20%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> ・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者 				
関連資格	保育士資格				
関連科目					
備考	原則、この科目は対面形式にて実施する				
担当教員	宮地 真奈美	実務経験		○	
実務内容	福岡市立那珂保育所にて保育士として勤務経験あり。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業説明
	保育とは	保護と教育
2	保育の意義	人間の子どもと保育の必要性
	乳幼児の特質	乳幼児期の発達的特質
3	保育思想の変遷①	古代
	保育思想の変遷②	中世
4	保育思想の変遷③	近世～近代
	保育思想の変遷④	ルソー、ペスタロッチ

5	近代保育施設の創設と発展①	ロバート・オーエンと性格形成学院
	近代保育施設の創設と発展②	フレーベルと幼稚園
6	近代保育施設の創設と発展③	モンテッソーリと子どもの家
	近代保育施設の創設と発展④	マクミラン姉妹と保育学校
7	わが国における幼稚園の成立	幼稚園
	わが国における保育園の成立	保育園
8	総まとめ	前期総まとめ
	保育の目的①	幼稚園の目的と規定
9	保育の目的②	保育所の目的と規定
	保育の目的③	その他の保育施設と規定
10	保育の内容・方法・計画①	保育の内容
	保育の内容・方法・計画②	保育の方法
11	保育の内容・方法・計画③	保育方法の基本原理
	保育の内容・方法・計画④	保育の計画
12	様々な保育と課題①	幼保一元化
	様々な保育と課題②	認定こども園
13	様々な保育と課題③	保育所民営化
	保育の多様化①	地域子ども子育て事業
14	保育の多様化②	幼稚園の預かり保育
	保育の多様化③	認可外保育施設
15	総まとめ	後期総まとめ
	振り返り	振り返り

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	子ども家庭福祉		
必修選択	選択	(学則表記)	子ども家庭福祉		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	医療保育科	2	30
使用教材	児童家庭福祉 第3版		出版社	ミネルヴァ書房	

科目の基礎情報②

授業のねらい	子どもとその家庭の福祉に関する知識と福祉職としての自覚と態度を身につける。				
到達目標	児童家庭福祉の制度や体系を理解し、児童家庭福祉の現状と課題を説明できるようにする。				
評価基準	テスト：60% 提出物：20% 授業態度：20%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> ・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者 				
関連資格	保育士資格・幼稚園教諭免許				
関連科目					
備考	原則、この科目は対面形式にて実施する				
担当教員	宮地 真奈美	実務経験		○	
実務内容	福岡市立那珂保育所にて保育士として勤務経験あり。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業説明
2	子ども家庭福祉の概念	子ども家庭福祉の考え方
3	現代社会と子ども家庭福祉①	社会環境の変化
4	現代社会と子ども家庭福祉②	少子化問題
5	現代社会と子ども家庭福祉③	家庭問題
6	子ども家庭福祉の法体系①	児童憲章
7	子ども家庭福祉の法体系②	児童福祉六法
8	子ども家庭福祉サービス①	社会的養護

9	子ども家庭福祉サービス②	児童虐待
10	子ども家庭福祉サービス③	ひとり親世帯
11	子ども家庭福祉サービス④	障害を持つ子ども
12	子ども家庭福祉サービス⑤	母子保健施策
13	保育の問題と現状	少子化対策
14	総まとめ①	前期テスト
15	総まとめ②	テスト振り返り
16	保育サービス①	待機児童への取り組み
17	保育サービス②	保育所
18	保育サービス③	認定こども園
19	子ども家庭福祉の機関	児童相談所の役割
20	子ども家庭福祉の専門職	児童福祉施設における専門職員
21	児童福祉施設	施設の種類
22	養護を必要とする子ども①	現状と施策
23	養護を必要とする子ども②	施設
24	障害のある子どもへの施策	施設と課題
25	健全育成	子ども健全育成支援施設
26	施設実習	目的と内容
27	DVD鑑賞	施設で育った
28	グループワーク	レポートをもとに
29	総まとめ①	後期テスト
30	総まとめ②	振り返り

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	子どもの保健		
必修選択	選択	(学則表記)	子どもの保健		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	医療保育課	4	60
使用教材	よくわかる子どもの保健 第3版		出版社	ミネルヴァ書房	

科目の基礎情報②

授業のねらい	子どもの身体発達、生理機能発達、運動機能発達、精神機能発達について学ぶ。				
到達目標	子どもの心身の健康について自ら考えることができる。				
評価基準	テスト80% 授業態度10% 出席状況10%				
認定条件	出席が総授業時間の3分の2以上ある者。成績評価が2以上の者				
関連資格	保育士・幼稚園資格				
関連科目					
備考	原則、この科目は対面形式にて実施する				
担当教員	田中優子	実務経験	○		
実務内容	九州大学医学附属病院での看護師としての勤務経験あり。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	Ⅰ 子どものための小児保健	小児保健のオリエンテーション 小児保健とは 子どもの健康を脅かすもの
2		発達に影響する要因 我が国の小児保健水準 母子保健 疾病異常と支援体制
3	Ⅱ 身体発育と保健	発育の原則 身体発育に影響する要因 乳幼児の計測・評価法
4		乳幼児の体重、身長、頭囲 身長・体重のバランス 肥満とやせ
5	まとめ ①	単元のまとめ①

6	III生理機能の発達と保健	自律神経について 体温・水分代謝と発熱について
7		循環について 呼吸・心拍・血圧について 消化・吸収、排泄について
8		骨・筋肉・関節について 睡眠、感覚器官について
9		免疫について
10	まとめ ②	単元のまとめ②
11	IV運動機能の発達と保健	新生児・乳幼児・幼児の運動機能の発達
12		学童期以降の運動機能の発達 DVD参照
13	V精神機能の発達と保健	言語の発達 DVD参照
14		社会性の発達 情緒の発達
15	前期のまとめ	前期のまとめ
16	VI子どもの精神保健	精神保健とは 育児環境と精神保健 子どもの心身の健康
17		心身症 生活習慣や行動上の保健 発達障害のある子どもとその対応
18		慢性疾患のある子どもとその対応 育児環境と精神保健
19		子どものトラウマとその対応 地域精神保健活動
20	まとめ ④	単元のまとめ ④
21	VII子どもの疾患と保育①	子どもの疾患の特徴
22		呼吸器疾患 重篤な感染症
23		消化器疾患 循環器疾患
24		泌尿器・生殖疾患 代謝・内分泌疾患
25		血液・腫瘍疾患 アレルギー疾患
26		整形外科疾患 その他の疾患
27	VIII子どもの疾患と保育②	乳幼児突然死症候分 保育所での感染症の取り扱い
28		予防接種 乳幼児健診
29	まとめ ⑤	単元のまとめ ⑤
30	年間まとめ	総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	子どもの食と栄養			
必修選択	選択	(学則表記)	子どもの食と栄養			
開講					単位数	時間数
年次	2年	学科	医療保育科	2	30	
使用教材	【近大配本テキスト】 新 保育ライブラリ 子どもの食と栄養			出版社	北大路書房	

科目の基礎情報②

授業のねらい	教育現場における教育相談の基礎知識と基本技術を身に付ける。問題解決のための児童・保護者への支援のありかたを学ぶ。(必要に応じディスカッション・ロールプレイングを取り入れながら)				
到達目標	小児の発達・発育の特性・栄養に関する基本的な知識を踏まえ、小児期における心身の発達段階に応じた栄養法、食生活、集団給食、食育の重要性を理解する				
評価基準	テスト/レポート：60% 授業態度：20% 提出物：20%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> ・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者 				
関連資格	保育士資格・幼稚園教諭免許				
関連科目	なし				
備考	原則、この科目は対面形式にて実施する				
担当教員	谷口美織				○
実務内容	管理栄養士・栄養教諭2種の資格を取得。3年間乳児院で栄養士として勤務経験あり。栄養士養成校にて実験実習助手や食品衛生学、食品学の授業を担当。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	子どもの健康と食生活の意義	子どもの健康と食生活の意義
2	消化・吸収	消化・吸収
3	栄養に関する基本的知識	栄養に関する基本的知識
4	食事摂取基準の意義	食事摂取基準の意義
5	子どもの発育・発達と食生活 発育・発達の評価と食生活	子どもの発育・発達と食生活 発育・発達の評価と食生活
6	食生活と子どもの健康	食生活と子どもの健康
7	妊娠のメカニズムと妊婦・食生活	妊娠のメカニズムと妊婦・食生活

8	母乳分泌と妊娠期・授乳期の食生活 乳児期の心身の特徴と食生活 離乳の意義とその実践	母乳分泌と妊娠期・授乳期の食生活 乳児期の心身の特徴と食生活 離乳の意義とその実践
9	幼児期の心身の特徴と 食生活の関係	幼児期の心身の特徴と食生活の関係
10	幼児期の栄養上の問題	幼児期の栄養上の問題
11	学齢期・思春期の食生活	学齢期・思春期の食生活
12	特別な配慮を要する子どもの 食と栄養	特別な配慮を要する子どもの食と栄養
13	障害がある子どもの食生活 児童福祉施設における食生活	障害がある子どもの食生活・児童福祉施設における食生活
14	食育の基本と内容・方法	食育の基本と内容・方法
15	まとめ	総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	保育の心理学		
必修選択	選択	(学則表記)	保育の心理学		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	医療保育科	2	30
使用教材	保育の心理学		出版社	近畿大学九州短期大学	

科目の基礎情報②

授業のねらい	この授業は、幼保における様々な虐待のケースを主に心理学的専門知識と実践方法を学ぶがけの授業である。☑				
到達目標	1.保育・教育実践における様々な虐待のケースを通して心理学的専門知識の習得する 2.発達障害やその他の情緒的特徴、虐待の子どもへの影響だけではなく、親の状態をどう捉え対応するか、現代社会の問題に沿って習得する				
評価基準	授業態度（意欲・行動）、ノート、レポート、小テスト、科目終末テスト				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上にある者、成績評価が2以上の者				
関連資格	保育士・幼稚園教諭2種				
関連科目	幼児の心理学、乳幼児心理学、幼児虐待の心理学				
備考	原則、この科目は対面形式にて実施する				
担当教員	長野雅恵	実務経験		○	
実務内容	県スクールカウンセラー勤務・某市スクールカウンセラー・某町保健課幼児健診相談・判定員・療育心理相談員として勤務経験あり。就学判定専門勤務・県巡回相談員（幼・小・中）勤務。公認心理士取得。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	発達心理学の課題	発達心理学とは何か・発達研究のテーマ：連続・非連続、生物学的影響・環境的影響
2	発達心理学の課題	発達研究のテーマ：初期経験・後の経験、能動的・受動的・文化、現象・過程 発達研究のテーマ：基礎研究・応用研究・発達段階
		経験の効果・発達理論の関連的視点・発達間の起源と系譜・成熟優位の発達理論 環境説、輻輳説・フロイトの性心理発達理論

3	現代の発達	ピアジェの相互作用説・ブルーナの学説・ハントの理論 エリクソンの理論・バンデューラーの社会学理論
4	言語の発達 言語発達の道筋	言語とは・人間と言語・言語の働き・言語獲得・刺激－反応理論による仮説
		生得的仮説・言語発達研究の流れ・軸文法・軸構造批判と深層構造・言語発達の道筋
5	知的発達	感覚運動期～形式的操作期へ
6	知的発達	発達の階層的構造化
7	知的発達	記号と表象
8	環境と発達	スキールズとダイの研究
		初期経験の影響・知能と環境
9	感情の発達	知・情・意の働き、内発的動機づけ、感情の種類
		情動の発達（１）・（２）、情動の種類
10	社会性の発達	社会化への道・社会的交流と遊び
11	道徳性の発達	道徳性についての三つの考え方
		道徳性の発達（ピアジェ、コールバーグ、ハイイツ）
12	青年期の発達	青年期とは・身体の発達
	青年期の発達	青年期の心理的な特徴・青年期の余暇活動

13	成人期の生活	就職・結婚・余暇
	成人期の生活	女性の時代・中高年層の悩み
14	成人期の生活	高齢者の生き方・就労意欲
	成人期の生活	生きがい・老人の病
15	現代社会と発達	現代社会と能力・コンピテンスの発達と教育
16	現代社会と発達	総まとめ
	科目終末試験	総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	子ども家庭支援の心理学		
必修選択	選択	(学則表記)	子ども家庭支援の心理学		
		開講	単位数	時間数	
年次	2年	学科	医療保育科	2	30
使用教材	新・基本保育シリーズ9 子ども家庭支援の心理学		出版社	中央法規出版	

科目の基礎情報②

授業のねらい	・生涯発達と初期経験の重要性を学ぶ ・家族、家庭の理解や子育て家庭に関する現状と課題を学ぶ				
到達目標	・生涯発達に関する心理学の知識を習得し、初期経験の重要性、各時期の移行、発達過程についてを他者に説明することができる ・家族家庭の意義や機能を理解し子どもとその家族を包括的に捉える視点を持つ ・子育て家庭の現状と課題を理解するとともに、子どもの精神保健とその課題について述べる事ができる				
評価基準	テキスト1講から6講、7講から9講、10.講から13講、14講から15講と4クルーに分けそれぞれの分野の理解度をレポート課題やテスト、グループワーク等で総合的な評価を行う				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	保育士・幼稚園教諭2種				
関連科目	子ども家庭支援論、保育の心理学、幼児の特別な支援、子育て支援				
備考	原則、この科目は対面形式にて実施する				
担当教員	長野雅恵	実務経験	○		
実務内容	県スクールカウンセラー勤務・某市スクールカウンセラー・某町保健課幼児健診相談・判定員・療育心理相談員として勤務経験あり。就学判定専門勤務・県巡回相談員(幼・小・中)勤務。公認心理士取得。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	「子ども家庭支援の心理学」という教科について、
2	第1講 乳児期の発達について	生まれてから2歳頃までの初期発達の特徴と保育者の関わりについて理解する
3	同上	新生児期、乳児期における運動発達や社会性・言葉の発達について学びを深める
4	第2講 幼児期の発達について	幼児期の基本的発達の特徴(認知、言語、社会性、自我)を理解する
5	同上	保育場面での事例等を通じ遊びの発達を学び、発達の道筋をを理解し保育者の役割について考える
6	第3講 学童期の発達について	小学校入学以降の学童期の発達の特徴(認知、社会性、自己概念)を理解する
7	同上	乳幼児期から学童期への移行の中で起こる発達と教育の諸問題について考える
8	第4講 青年期の発達について	青年期の身体的発達と認知発達、対人関係の変化、青年期の問題行動について学ぶ

9	同上	問題行動のリスクの高い子どもたちの介入研究を行う
10	第5講 成人期・中年期の発達について	成人期の社会的責任や役割等を知り、配偶者、子ども、親等との関係性の変化を理解する
11	第6講 高齢期の発達について	我が国の超高齢化社会を理解し、高齢者を取り巻く社会状況や高齢者福祉や支援等を学ぶ
12	1講から6講のまとめ	主に人の発達について理解したことをまとめる
13	第7講 家族・家庭の意義と機能	家族形態の歴史的变化について知り、現代の家庭の機能について理解をする
14	第8講 家族関係、親子関係の理解	家族のシステム論を学び、様々な家族関係を理解しジェノグラムの書き方を学ぶ
15	同上	親子関係のロールプレイを行うことで家族間でのコミュニケーションの大切さを学ぶ
16	第9講 子育ての経験と親としての育ち	保育園、幼稚園、子ども園などの子育て支援の法規を学び、保護者の気持ちを理解する
17	同上	赤ちゃん誕生や、こんにちは赤ちゃん対策などの映像を通じて親の意識や心理を理解する
18	第10講 子育てを取り巻く社会的状況	日本の少子化問題を理解し、核家族化を支える制度を理解する
19	同上	実際に行われている自治体の子育て支援の実践を調べ、日本での子育て支援の状況を理解する
20	第11講 ライフコースと仕事、子育て	ライフコースの概念を学び、その歴史の変換を通じて日本のライフコースの様相を知る
21	同上	ライフコースの視点を生かした親理解や親支援を事例を通じて考察する
22	12講 多様な家庭とその理解	多様な家族関係に焦点をあて、社会的養護や福祉領域との接点を知る
23	同上	子どもを取り巻くさまざまな課題を知り、それらの具体的な支援の現状を学ぶ
24	第13講 特別な配慮を要する家庭	養育者のメンタルヘルスや子どもの虐待、障がいに対するマルトリートメントと家族機能不全を知る
25	同上	逆境的小児体験の影響、トラウマインフォームド・ケアを学び、保育者としてのスキルを得る
26	第14講 子どもの生活、生育環境とその影響	年齢に応じた保育環境の大切さを知る
27	同上	特殊な環境で育った子どもや、その家族のサポート方法を考察する
28	第15講 子どもの心の健康に関わる問題	子どもの心の健康について理解する
29	同上	発達要がいについての理解を深め、他の機関との連携などを考え総合的な子どもの育ちを知る
30	教科総まとめ	1年間の総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	教育相談		
必修選択	必修	(学則表記)	教育相談		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	医療保育科	4	60
使用教材	子育て支援カウンセリング ～幼稚園・保育所で行う保護者の心のサポート～		出版社	図書文化	

科目の基礎情報②

授業のねらい	教育現場における教育相談の基礎知識と基本技術を身につける。問題解決のための園児・保護者への支援の在り方を学ぶ。				
到達目標	子どもの心の成長やつまずき、保護者への支援に関する理解を臨床心理学的視点から深めることを通じて、子どもや家庭への支援の在り方を理解できる。				
評価基準	テスト/レポート60%・授業態度20%・提出物20%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> ・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者 				
関連資格	保育士・幼稚園教諭2種				
関連科目	教育原理・教育課程総論・幼児と人間関係・教育心理学・発達心理学 等				
備考	原則、この科目は対面形式にて実施する				
担当教員	上田 真弘	実務経験	○		
実務内容	現在保育所にて園長として勤務。地域子育て支援や幼児教育アドバイザーを担当。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	ガイダンス、本講義の内容。
2	よりよい子育て支援のために①	子育て支援の考え方①
3	よりよい子育て支援のために②	子育て支援の考え方②
4	子育て支援に生かすカウンセリングの理論①	来談者中心療法
5	子育て支援に生かすカウンセリングの理論②	精神分析
6	子育て支援に生かすカウンセリングの理論③	アドラー心理学
7	子育て支援に生かすカウンセリングの理論④	ユング心理学
8	子育て支援に生かすカウンセリングの理論⑤	行動療法、論理療法など

9	カウンセリングの技法①	カウンセリングスキルの基礎
10	カウンセリングの技法②	カウンセリングスキル、言語、姿勢、応答。
11	カウンセリングの技法③	傾聴、質問の方法
12	日常的な実践のポイント①	事例研究：保護者の育児支援など。
13	日常的な実践のポイント②	事例研究：登園しぶりの子どもへの支援、虐待が疑われる家庭など。
14	ここまでのまとめ①	近大レポート課題の対策/近大試験問題についての対策
15	ここまでのまとめ②	レポート/試験
16	カウンセリング・ロールプレイの準備	カウンセリング・ロールプレイの準備
17	カウンセリング・ロールプレイ①	ロールプレイと振り返り
18	カウンセリング・ロールプレイ②	ロールプレイと振り返り
19	カウンセリング・ロールプレイ③	ロールプレイと振り返り
20	カウンセリング・ロールプレイ④	ロールプレイと振り返り
21	発達障害	発達障害児への対応と支援
22	障害のある子どもを持つ保護者への支援	障害のある子どもを持つ親への支援の在り方と地域資源について
23	養育困難	養育困難をかかえる保護者への支援
24	虐待	虐待が疑われる保護者への支援
25	精神疾患の疑いのある保護者	様々な精神疾患
26	構成的グループエンカウンター	構成的グループエンカウンターについて。
27	親の会とは	親の会へのサポート、ピアサポートの推進、園内の教育相談の体制整備
28	自分と向き合う	保育者として自分と向き合う、保育者自身のストレスケアの方法
29	まとめ①	近大のレポート課題対策/試験問題対策
30	まとめ②	レポート/試験

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	子ども家庭支援論			
必修選択	必修	(学則表記)	子ども家庭支援論			
開講					単位数	時間数
年次	2年次	学科	医療保育科	4	60	
使用教材	近大配本テキスト：松原康雄 他、編著『子ども家庭支援論』		出版社	中央法規		

科目の基礎情報②

授業のねらい	進む核家族化や地域の希薄化により、子育て支援が得にくい社会状況で、子育てへの不安や負担が増加している。そんな子育てで家族の支援を充実させる観点から、子育て支援に必要な知識の基礎理解について学ぶ。				
到達目標	子ども、その家庭の理解を深め、子育て家庭への支援に関する保育士としての基本姿勢や支援内容、それを実践するための方法、技術について理解をする。また、家庭支援のみならず、社会的養護や保護者支援に応用できるための基本的な理論と実践方法を学び、就職先で保護者の支援に対応できる力を身につける。				
評価基準	テスト/レポート：60% 授業態度20% 提出物20%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	保育士・幼稚園教諭二種免許状				
関連科目	教育相談、社会福祉、児童福祉				
備考	原則、この科目は対面形式にて実施する				
担当教員	黒木 知恵美	実務経験		○	
実務内容	福岡市内の保育園で10勤務経験あり。大野城市子育て支援サポーター3年。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	ガイダンス・子ども家庭支援を学ぶ意義	ガイダンス。本講義の内容について説明を受ける。
2	少子化対策と子育て支援	少子化の状況、要因とその対応/地域格差とその解消について学ぶ。
3	児童福祉、保育園、幼稚園での家庭支援の目的	児童福祉、保育所保育指針、幼稚園教育要領に定められる家庭支援の目的と機能について学ぶ。
4	子ども家庭支援の機能と原則	子ども、保護者の理解、それによる保育士の専門性について学ぶ。
5	子育て支援施策	子育て支援、次世代育成支援の背景について学ぶ。
6	子ども、子育て関連3法の成立過程と新制度の概要、要点	家庭支援における保育者の役割（保育所保育指針・幼稚園教育要領等）について学ぶ。
7	子育て家庭の福祉のための社会資源	社会資源とはなにか、子育て家庭を支える社会資源と担い手について学ぶ。

8	事例を通じた社会資源の活用と連携	社会資源の活用の現状や課題、今後の展望について学ぶ。
9	保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義	保育士の専門性について学ぶ。
10	保育所保育指針による子育て支援について	子ども家庭支援で特に留意すべき点は何かを学ぶ。
11	子どもの育ちの喜びの共有について	子育ての喜びを共有することが保護者にとって、どのような意味があるのかを学ぶ。
12	子どもの育ちの喜びを共有するためのツール	実際に保護者に向けて、子どもの様子を伝えるためのツールを考える。
13	地域子育て支援について	地域の子育て家庭を取り巻く環境について学ぶ。
14	保育所を利用している保護者支援	保育所や幼稚園に通わせている親の支援、待機児童について学ぶ。
15	ここまでのまとめ	レポート/試験
16	保育士に求められる基本的態度	バイステック7原則（信頼関係の築き方）を学ぶ。
17	バイステックの原則の実践例	具体的な事例より、バイステック原則を使って、対応を考える。
18	家庭の状況に応じた支援	養育上の課題を抱えた家族について学ぶ。
19	課題を抱える家庭に対する保育士の姿勢	継続支援や、理解をするうえでの理論について学ぶ。
20	地域資源の活用と自治体・関係機関連携について	家庭のニーズの多様化に対応できるよう、連携先の理解や、連携の仕方を学ぶ。
21	子ども家庭支援の内容と対象	子ども家庭支援の具体的な対象や、支援の内容やアプローチ方法、支援形態について学ぶ。
22	子ども家庭支援のアプローチ	相談援助技術を活用した支援について学ぶ。
23	保育所等を利用する子どもの家庭への支援	改正児童福祉法と子ども家庭支援について学ぶ。
24	家庭が抱える生活課題と保育所等の役割	多様化する生活課題について対応できるよう理論を学ぶ。
25	地域子育て家庭への支援	地方自治体における子育て支援事業を理解する。
26	地域子育て支援の支援者としての姿勢について	具体的な事例から行政や関係機関との関わりを学ぶ。
27	要保護児童およびその家庭に対する支援	要保護児童家庭の背景について学ぶ。
28	要保護児童とその家庭に対する支援枠組み	児童養護における施策と親子関係再構築支援について学ぶ。
29	子育て支援に関する課題と展望	子育て支援における顕在的ニーズと潜在的ニーズの支援について学ぶ。 近大試験、レポート対策。
30	まとめ	レポート/試験

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	幼児への特別な支援		
必修選択	必修	(学則表記)	幼児への特別な支援		
開講			単位数	時間数	
年次	2年	学科	医療保育科	2	30
使用教材	【近大配本テキスト】よくわかる障害児保育第2版		出版社	ミネルヴァ書房	

科目の基礎情報②

授業のねらい	特別支援教育に関する理念、制度の仕組みを理解する。				
到達目標	特別支援を必要とする幼児への支援の方法について例示することができる。				
評価基準	テスト/レポート：60% 授業態度：20%（出席含） 提出物：20%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	保育士・幼稚園教諭2種				
関連科目	社会福祉・児童家庭福祉・相談援助				
備考	原則、この科目は対面形式にて実施する				
担当教員	長野雅恵	実務経験		○	
実務内容	県スクールカウンセラー勤務・某市スクールカウンセラー・某町保健課幼児健診相談・判定員・療育心理相談員として勤務経験あり。就学判定専門勤務・県巡回相談員（幼・小・中）勤務。公認心理士取得。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション I. 障害児保育とは何か	保育現場にいる障害のある子ども、障害のとらえ方と変化
2	障害児保育とは何か	3 乳幼児期における障害特性
3		障がいのとらえ方と理論の変化
4		幼児期の障害のある子どもの抱える「困り感」
5	II. 障害児保育の仕組み	障害児保育のあゆみ 障害児保育の制度と形態
6		障害児保育に関する専門性
7		障害児とライフコース 乳幼児健康診査と早期発見 6 就学時の健康診断と就学相談

8		知的障害のとらえ方 2 知的障害の認知の特徴
9	III. 知的障害の特徴と保育での支援	知的障害児の特徴を踏まえた支援 4 ダウン症児の特徴と支援のポイント
10		基本的な生活習慣の確立 保育現場における支援 7 個別配慮や小集団を利用した発達支援
11		1 自閉症スペクトラム障害のとらえ方 2 自閉症スペクトラム障害児の認知の特徴
12	IV. 自閉症スペクトラム障害の特徴と保育での支援	3 自閉症スペクトラム障害児の社会性や行動の特徴 4 自閉症スペクトラム障害児と二次障害
13		自閉症スペクトラム障害児の特徴を踏まえた支援のポイント 6 保育現場における支援
14		7 個別配慮や小集団を利用した保育
15		前期まとめ 実習報告と気づき
16	V 注意欠如・多動性障害の特徴と保育での支援	1 注意欠如・多動性障害のとらえ方 2 注意欠如・多動性障害児の認知の特徴
17		3 注意欠如・多動性障害児の行動の特徴 4 注意欠如・多動性障害児の特徴を踏まえた支援のポイント
18		5 保育現場における支援 6 ADHDと二次障害
19		1 学習障害のとらえ方 2 学習障害児の認知の特徴
20	VI 学習障害の特徴と保育での支援	3 学習障害児と不器用 4 学習障害児の特徴を踏まえた支援
21		5 保育現場における支援 6 保育者の理解と保育の中での個別配慮
22		1 発達保障のインクルーシブ保育 2 障害児の在籍するクラスの保育計画
23	VIII インクルーシブ保育とは	3 問題行動のとらえ方 4 保育者の気づきと保育 5 クラスメイトへの対応
24	XI 障害児のアセスメント	1 保育におけるアセスメント 2 保護者からの情報による子ども理解
25		3 行動観察における子ども理解
26		4 心理監査による子ども理解
27		9 総合的な子ども理解と支援への活用
28		後期まとめ 後期まとめ
29	年間まとめ① 年間まとめ①	
30	年間まとめ② 年間まとめ②	

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	実習就職対策Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	実習就職対策Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	医療保育科	4	60
使用教材	施設実習パーフェクトガイド		出版社	わかば社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	保育現場で必要とされる人材の育成。				
到達目標	実習生としての心構えとあるべき姿を理解する。 実習生に必要な「話す、動く、書く、作る」技術を身に付け、実践できる。				
評価基準	提出物・実習グッズ作品：60% 授業態度：40%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> ・出席が総時間数の3分の2以上ある ・成績評価が2以上 				
関連資格	保育士資格・幼稚園教諭免許				
関連科目	保育原理、保育者論、保育カリキュラム論、保育内容総論、未来の先生プロジェクト				
備考	保育現場で必要とされる人材となるために、1年次から準備する。 実習は地域性が強く、準備内容や期間が異なるため各校裁量で内容を決める。 原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	黒木 知恵美	実務経験		○	
実務内容	福岡市内の保育園で10年勤務経験あり。大野城市子育て支援サポーター3年。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	【実習の基本】 実習の種類と目的	保育者になるということ グループワーク 幼稚園実習について
2	【実習の準備】	実習オリエンテーションの受け方 教育要領 5領域の狙いと内容
3		実習日誌の書き方 調査票、出勤簿、施設概要など
4	【実習準備】	指導案を立てる
5	【実習準備】	指導案を立てる
6	【実習準備】	指導案を立てる
7	【実習準備】	日誌の書き方の復習

8	【実習準備】	日誌の書き方の復習 実習を前に
9	【実習準備】	実習振り返り
10	【実習準備】	5領域テスト 健康 指導案
11	【実習準備】	5領域テスト 人間関係
12	【実習の準備】	5領域テスト 環境 指導案 保育シュミレーション
13	【実習の準備】	5領域テスト 言葉 指導案 保育シュミレーション
14	【実習の準備】	5領域テスト 表現 指導案 保育シュミレーション
15	【実習の準備】	まとめ 前期の振り返りを行う
16	【実習の準備】	実習オリエンテーションの確認と準備
17	【実習の準備】	・指導案・日誌の最終確認
18	【実習の準備】	・実習を前に心構え、準備することの確認
19	【実習の準備】	・実習振り返り
20	【保育行事 体験】	・保育発表会オペレッタ企画、実践
21	【保育行事 体験】	・保育発表会オペレッタ企画、実践
22	【保育行事 体験】	・保育発表会オペレッタ企画、実践
23	【保育行事 体験】	・保育発表会オペレッタ企画、実践
24		・保育発表会オペレッタ企画、実践
25	【保育行事 体験】	・保育発表会オペレッタ企画、実践
26	【保育行事 体験】	・保育発表会オペレッタ企画、実践
27	【実習の基本】	・病児保育実習の行い方 オリエンテーション
28	【実習の基本】	・小児のかかりやすい病気とその対応
29	【実習の基本】	・実習報告会について
30	【これからの実習】	・1年を振り返って まとめ ・これからの実習の流れの理解

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実技	科目名	子どもの音楽Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	子どもの音楽Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	医療保育科	2	60
使用教材	こどものうた200、続こどものうた200		出版社	チャイルド本社、チャイルド本社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	保育現場で必要とされる子どもの歌を理解し、弾き歌いを出来るようにする。				
到達目標	保育者として必要な音楽技能、技術を身につける。				
評価基準	授業態度20% 修得確認(実技)50% 学期末修得確認(実技)30%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> ・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者 				
関連資格	保育士資格・幼稚園教諭免許				
関連科目	子どもの音楽ⅠA・子どもの音楽ⅠB・子どもの音楽Ⅲ・子どものリトミックA・子どものリトミックB				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	中村 智子	実務経験	○		
実務内容	幼稚園教諭として勤務経験後、保育士養成の短期大学で音楽や教育系科目を担当。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	季節の歌 (春)	春の歌を習得する。
2	季節の歌 (春)	
3	行事の歌 (春)	春の行事の歌を習得する。
4	行事の歌 (春)	
5	園生活の歌	園生活の歌を習得する。
6	園生活の歌	
7	うたあそび・みんなのうた	続こどものうたより、うたあそびなどよく歌われる歌を習得する。
8	うたあそび・みんなのうた	

9	季節の歌 (夏)	
10	季節の歌 (夏)	
11	行事の歌 (夏)	
12	行事の歌 (夏)	
13	うたあそび・みんなのうた	夏の歌を習得する。
14	うたあそび・みんなのうた	
15	学期末修得確認	前期のまとめとして練習曲2曲を発表する。
16	季節の歌 (秋)	
17	季節の歌 (秋)	
18	行事の歌 (秋)	
19	行事の歌 (秋)	
20	うたあそび・みんなのうた	秋の歌を習得する。
21	うたあそび・みんなのうた	
22	うたあそび・みんなのうた	
23	うたあそび・みんなのうた	
24	季節の歌 (冬)	
25	季節の歌 (冬)	
26	行事の歌 (冬)	
27	行事の歌 (冬)	
28	うたあそび・みんなのうた	冬の歌を習得する。
29	うたあそび・みんなのうた	
30	学期末修得確認	卒園式の歌などを習得する。
		後期のまとめとして練習曲2曲を発表する。

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	子どもの医療Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	子どもの医療Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	医療保育科	2	30
使用教材	基本から実践まで！！すぐに役立つ医療保育実践マニュアル		出版社	診断と治療社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	小児医療現場での保育者の役割を理解する				
到達目標	小児医療現場と保育現場に共通する保育士の役割を述べることができる。 入院中の子ども達の保育プランを考えることができる。 能動的学習を意識し、積極的に発言できる。				
評価基準	修得確認（テスト）と提出物：60% 授業態度：40%				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	保育士資格				
関連科目	子どもの医療Ⅱ、入院中の子どものケア、病児保育、小児医療				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	成本 久美子	実務経験		○	
実務内容	済生会福岡総合病院にて看護師として勤務経験あり。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	医療保育を知る	・医療保育の目的と意味を理解する。 ・授業の全体像と今後の学びを知る。
2	AⅠ. 医療現場での保育 ねらいと役割の理解	・入院中の子どものQOL向上の意味を知る。 ・入院中の子どもと家族の状況と支援目標を理解する。
3	AⅡ. 病棟保育士の活動と 業務を知る	・病棟保育士に必要な医療用語を知る。 ・連携する医療スタッフを把握する。
4	AⅢ. 病棟保育士の業務理解	・1日のスケジュールをイメージする。 ・保育園の保育士との違いを理解する。
5	AⅣ. 病院での保育活動①	・保育する上での留意事項を理解する。 ・病院で保育するための環境構成を考える。

6	AIV. 病院での保育活動②	<ul style="list-style-type: none"> ・病院で保育するために必要な情報項目を理解する。 ・各項目の意味を理解する。
7	AIV. 病院での保育活動③	<ul style="list-style-type: none"> ・プレイルームでの集団保育の意味と医療的留意点を理解する。 ・車椅子と点滴を考慮したプレイルームを考える。【提出】プレイルーム作成
8	AIV. 病院での保育活動④	<ul style="list-style-type: none"> ・集団保育ができない子どもの状況を理解し、適した個別保育を考える。 ・病室でできる遊びとベット上でできる遊びを考える。
9	AIV. 病院での保育活動⑤	【提出】ベット上でできる遊びの企画書、または指導案の作成
10	AIV. 病院での保育活動⑥	<ul style="list-style-type: none"> ・病棟でのイベントの目的と医療的留意点を理解する。 ・患者である子どもが参加しやすいイベントを考える。【提出】イベント企画
11	AV. 生活援助と家族支援①	<ul style="list-style-type: none"> ・入院中の生活支援と保育士としてのケアを学ぶ。
12	AV. 生活援助と家族支援②	<ul style="list-style-type: none"> ・食事の留意点と病院での食事の意味を理解する。保育現場での食事との違いを考える。
13	AV. 生活援助と家族支援③	<ul style="list-style-type: none"> ・入院中の子どもの排泄、歯磨きや手洗い、睡眠の援助と留意点を理解する。 ・医療機器や点滴へ配慮した着脱衣とプライバシーへの留意点を理解する。 ・保育士に求められる家族支援を理解し、兄弟支援の方法と留意点を考える。
14	AVI. 保育活動中に起こりうる事故と安全対策	<ul style="list-style-type: none"> ・事故が起こりうる場所と場面を理解する。 ・感染防止のための洗浄と効果を知る。
15	修得確認	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学びをまとめ、知識を整理するために試験を受ける。
16	BI. 保育記録マニュアル①	<ul style="list-style-type: none"> ・医療的視点での記録と保育士視点での記録の違いを理解する。 ・伝えたい内容、残したい内容を考える。
17	BI. 保育記録マニュアル②	<ul style="list-style-type: none"> ・医療現場での保育計画を考える。
18	BII. 症例別にみた保育支援①	<ul style="list-style-type: none"> ・下記の症例と状況、年齢を考慮し、必要な保育支援と保育内容を考える。
19	BII. 症例別にみた保育支援②	<ol style="list-style-type: none"> 1. クローン病の治療のために入院した12歳10か月女児 2. アトピー性皮膚炎の治療のため入院となった1歳8か月男児 3. 気管支喘息で緊急入院となった3歳6か月男児
20	BII. 症例別にみた保育支援③	<ol style="list-style-type: none"> 4. 先天性心疾患により出生時より入院している3か月女児 5. 心房中隔欠損症の心内修復術を受ける7歳2か月女児
21	BII. 症例別にみた保育支援④	<ul style="list-style-type: none"> ・下記の症例と状況、年齢を考慮し、必要な保育支援と保育内容を考える。
22	BII. 症例別にみた保育支援⑤	<ol style="list-style-type: none"> 6. ネフローゼ症候群の治療のため入院となった2歳9か月男児 7. 急性リンパ性白血病と診断された6歳3か月女児 8. 細気管支炎のため緊急入院となった2歳3か月男児
23	BII. 症例別にみた保育支援⑥	<ol style="list-style-type: none"> 9. 内服コントロールのため入院となった重症心身障がい児6歳7か月男児 10. 虐待を疑われた4歳10か月男児
24	BII. 症例別にみた保育支援⑦	<ul style="list-style-type: none"> ・下記の症例と状況、年齢を考慮し、必要な保育支援と保育内容を考える。
25	BII. 症例別にみた保育支援⑧	<ol style="list-style-type: none"> 11. 川崎病で緊急入院となった自閉症スペクトラム症5歳6か月男児 12. 未熟網膜症の手術のため入院した6か月女児 13. 上腕骨顆上骨折で入院となった7歳1か月女児
26	BII. 症例別にみた保育支援⑨	<ol style="list-style-type: none"> 14. 口蓋扁桃肥大によりアデノイド摘出手術を受ける6歳6か月男児 15. 在宅移行する低酸素性虚血性脳症の9か月男児

27	C I. 多職種との連携について	<ul style="list-style-type: none"> ・小児医療現場で連携が必要な職種を理解する。 ・チーム医療における保育士の在り方を考える。
28	C II. 医療現場における保育士教育	<ul style="list-style-type: none"> ・病棟保育士に必要な知識と技術を理解する。 ・病棟保育士の現状と課題について学ぶ。
29	修得確認	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学びをまとめ、知識を整理するために試験を受ける。
30	まとめ	<p>修得確認用紙を返却される。</p> <p>1年間のまとめを行う。</p>

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	入院中の子どものケア		
必修選択	選択	(学則表記)	入院中の子どものケア		
開講					
年次	2年	学科	医療保育科	単位数	2
時間数				30	
使用教材	医療を受ける子どもへの上手な関わり方		出版社	日本看護協会出版会	

科目の基礎情報②

授業のねらい	病棟保育士が対応できることは何かを考え、子どもの発達や心理を理解した保育的支援を理解する。 医療を受ける子どもへの配慮とかかわりを理解し、保育現場でのより細やかな支援につなげる。				
到達目標	チャイルドライフスペシャリストを理解することで、医療現場における保育者の使命と役割を知る。 グループワークや実践を通して、能動的な学習と課題研究の姿勢を身に付ける。				
評価基準	修得確認(テスト)：50% ワークシート：20% 授業態度：30%				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	保育士資格・幼稚園教諭免許				
関連科目	病児保育論				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	成本 久美子	実務経験	○		
実務内容	済生会福岡総合病院にて看護師として勤務経験あり。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	1、子ども・家族中心の医療がなぜ必要なのか	・医療を受ける子どもの思いと家族の思い・チャイルドライフプログラム、小児医療における「子ども・家庭中心医療」について習得する。
2	療養環境の工夫P12-14	・子どもに病院はどう見えるのか、子ども視点で考える。 ・発達の理解(乳幼児期は学習済みのため確認のみ)について学ぶ。
3	①病棟の工夫 ②プレイルームの工夫	・子どもが安心できる居場所作りの必要性と工夫、プレイルームの活用方法について学ぶ。
4	③処置室の工夫 ④手術室の工夫	・子どもの視点での環境整備、恐怖心を取り除く工夫(なぜ怖いのかを考える)について学ぶ。
5	⑤画像検査室の工夫 ⑥待合室の改善	・子ども視点での環境整備、待合室の環境整備プラン作成について学ぶ。
6	発達段階に応じたかかわり方 ①泣きやまない赤ちゃんへの対応	・乳児期の子どもの発達と援助方法について学ぶ。
7	②限られた時間の中での遊びの工夫	・乳児期の遊びの確認と医療現場への活かし方について学ぶ。
8	③子どもへのかかわり方に自信がない母親への支援 ④不安やストレスを抱える子どもの反応と支援	・子どもの入院に伴う母親の心情理解、入院中のストレスとコーピングについて学ぶ。
9	⑤入院中の子どもにとっての遊びの意義とポイント ⑥不用意な言葉で子どもを叱る母親への介入	・入院中の子どもの遊び、病気や治療についての子どもの受け止め方について学ぶ。
10	⑦入院で学校生活から長く離れている子どもへの支援 ⑧1日中一人でゲームを行っている子どもへの対応	・学習環境の整備と支援、学校との連携、学童期の子どもの理解について学ぶ。
11	⑨家族や友人を亡くした子どもへの対応 ⑩子どもの治療の選択、意思決定参加への支援	・発達段階によるいのちへの理解と正しい説明・いのちに関する絵本の考察・子どもの意思決定への見極め・情報提供後の精神的フォローについて学ぶ。
12	⑪一人で部屋に閉じこもっている子どもへの対応 ⑫弱音を吐かずがんばっている子どもへの支援	・思春期の子どものプライバシーとコミュニケーション、思春期の子どもに適した支援と環境設定について学ぶ。

13	きょうだい支援 ①学校へ行きたくないきょうだいへの支援	・きょうだいの支援と親との連携、家族のコミュニケーション支援について学ぶ。
14	②きょうだいへの病気や治療についての伝え方 ③面接が制限されているきょうだいへの支援	・きょうだいへの正しい情報提供と配慮、きょうだいとのコミュニケーション支援について学ぶ。
15	修得確認	【修得確認】入院中の子どもの状況、心境を理解し、その場の配慮についての試験を受ける。
16	子どもへの説明とプリパレーション	・説明の種類、プリパレーションの段階別理解について学ぶ。
17	子どもへの病気・検査・治療などの説明 ①子どもへの説明と親への支援 ②説明の時期とタイミング	・子どもの不安軽減と親の心理、発達段階に応じた説明とタイミングについて学ぶ。
18	③説明時の言葉の選び方 ④痛みについての説明	・子どもへの言葉と配慮、恐怖の軽減、治療の説明の実践について学ぶ。
19	⑤ツール活用時の工夫 ⑥検査や手術の説明	・発達段階における適したツールと説明方法、恐怖心軽減ための工夫について学ぶ。
20	検査・処置中の支援 ①処置を嫌がる子どもへの対応	・処置のプリパレーションと処置室の環境整備について学ぶ。
21	②処置の際の声かけ	・子ども視点での配慮と声かけについて学ぶ。
22	③痛みを伴う検査や処置中の支援 ④子どもが部屋で一人になる検査・治療の支援	・心の準備のための痛みの正しい理解と伝え方、孤独感軽減のための対策について学ぶ。
23	⑤限られた時間内でのかわり ⑥親の処置参加	・緊急な対応での子ども支援、親の心情理解と対応について学ぶ。
24	日常生活の援助 ①バイタルサインの測定	・バイタルサイン測定の理解、安心感を与えるツールの工夫と言葉の実践について学ぶ。
25	②内服の促し ③面会終了時に泣き出す子どもへの対応	・内服薬と内服補助グッズの理解、親との分離による恐怖感と罪悪感からの支援について学ぶ。
26	④排泄の援助 ⑤清潔ケア	・自尊心を尊重しながらの援助方法、テープ交換の実践について学ぶ。
27	⑥発達障害のある子どもへの対応	・自閉症の特徴の確認と入院生活上の留意点、視覚的支援方法の工夫について学ぶ。
28	多職種連携 ①多職種連携の方法 ②放射線部門と多機能連携	・小児病棟に関わる職種の理解・多職種間の円滑材となるための工夫と援助について学ぶ。 ・小児病棟と他部門の医療スタッフとの連携について学ぶ。 ・子どもの不安軽減のための配慮について学ぶ。
29	修得確認	【修得確認】病院での保育士の役割についての試験を受ける。
30	まとめ	修得確認の振り返りと1年間のまとめを行う。

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	医療事務Ⅰ			
必修選択	選択	(学則表記)	医療事務Ⅰ			
開講					単位数	時間数
年次	2年	学科	医療保育科		6	90
使用教材	①診療報酬点数早見表②カルテ問題集③薬価表④早見表 ⑤医療事務テキストⅠ・Ⅱ⑥検定過去問題集			出版社	①医学通信社②～⑤ユアサポート ⑥全国医療事務教育協議会	

科目の基礎情報②

授業のねらい	点数表を読み内容が理解でき、様々な算定に対応できる力を習得する 医療事務の仕事について理解し、日本の医療制度や健康保険法を中心に医療の現場に必要な知識を習得する				
到達目標	医療事務の仕事について述べるができる 点数表を読み込み、レセプトの作成ができる 日本の医療制度や健康保険法などの現場に必要な知識を述べるができる				
評価基準	【前期・後期ともに】 評価テスト30% 小テスト20% 提出物30% 授業態度20%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	医療事務検定2級、医療事務検定1級				
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	有吉 千穂	実務経験		○	
実務内容	福岡県内のクリニックにて医療事務員として18年勤務し、受付・会計業務や看護クラーク業務を担当していた。その後、総合病院で2年、調剤薬局で1年、医療事務員として勤務した。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	医療保険の概要	医療事務とは (仕事内容、年間授業内容、履修目的、検定日程等)
2	受付事務と請求事務	・日本の医療制度、医療保険の仕組み ・社保、国保、医療法、健康保険法について ・保険証カルテ上書き、レセプト上書き
3	診療報酬の算定 基本診療料	・点数表の構成と見方 ・初診料・再診料
4	基本診療料	・外来診療料
5	医学管理等	・特、薬情など外来算定のものを中心に実施
6	医学管理等 在宅医療	・外来算定のものを中心に実施 ・往診料

7	在宅医療	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅療養指導管理料 (テキストII、カルテ問題集中心に)
8	投薬	<ul style="list-style-type: none"> ・薬剤の種類、薬価の引き方 ・薬剤料の計算方法 ・投薬料の算定 薬剤料
9	投薬	<ul style="list-style-type: none"> ・投薬料の算定 調剤料、処方料 ・調剤技術基本料
10	投薬	<ul style="list-style-type: none"> ・処方箋料 ・その他 ビタミン剤の算定、うがい薬の算定
11	注射	<ul style="list-style-type: none"> ・薬剤料 ・注射実施料(手技料) IM、IV
12	注射	<ul style="list-style-type: none"> ・注射実施料(手技料) その他の注射 ・注射手技料の加算 ・特定保険医療材料 その他
13	処置	<ul style="list-style-type: none"> ・処置料の共通事項 ・処置料の区分の算定 一般処置 熱傷処置 まで
14	処置	<ul style="list-style-type: none"> ・処置料の算定
15	まとめ：外来レセプト作成	<ul style="list-style-type: none"> ・処置料までのレセプト作成
16	手術	<ul style="list-style-type: none"> ・処置との違い ・手術料の共通事項
17	手術、輸血、麻酔	<ul style="list-style-type: none"> ・手術料 ※主な手術(テキストII、カルテ例題集中心) ・麻酔・輸血料 ・時間、年齢加算
18	手術・麻酔 小まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・手術・麻酔 小まとめ
19	検査 検体検査料	<ul style="list-style-type: none"> ・検体検査の共通事項 ・検体検査実施料
20	検査 検体検査料・生体検査料	<ul style="list-style-type: none"> ・緊検、包括算足 ・生体検査の共通事項 ・生体検査実施料
21	病理診断	<ul style="list-style-type: none"> ・病理診断の共通事項 ・病理診断、判断料 ・病理標本作成
22	画像診断	<ul style="list-style-type: none"> ・画像診断の共通事項 ・エックス線診断料 単純撮影
23	画像診断	<ul style="list-style-type: none"> ・エックス線診断料 造影撮影、特殊撮影 ・コンピューター断層撮影診断
24	リハビリテーション 精神科専門療法 放射線治療	<ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーション 疾患別リハビリテーション ・精神科専門療法 心身医学療法 ・放射線治療とは
25	まとめ：外来レセプト作成	<ul style="list-style-type: none"> ・全範囲外来レセプト作成 ・学科問題の解き方

26	検定対策	・ 医事検定2級 模擬試験 ・ 学科問題
27	検定対策	・ 医事検定2級 模擬試験 ・ 学科問題
28	検定対策	・ 医事検定2級 模擬試験 ・ 学科問題
29	検定対策	・ 医事検定2級 模擬試験 ・ 学科問題
30	入院	・ 入院料・外来との違い・上書きについて

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	子どもの事故		
必修選択	選択	(学則表記)	子どもの事故		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	医療保育科	4	60
使用教材	保育園における事故防止と安全保育 第2判		出版社	日本小児医事出版社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	子どもの発達とともに起こりやすい事故について学び、事故防止・サポートの方法を考察する。				
到達目標	乳幼児の事故を知り、事故防止対策と対応方法の理解を深める。 感染症予防・危機管理対策をふまえてた対応の仕方を習得する。				
評価基準	修得確認50%、ワークシート20%、授業態度30%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> ・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者 				
関連資格	保育士資格・幼稚園教諭免許				
関連科目	子どもの保健Ⅰ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	成本 久美子	実務経験		○	
実務内容	済生会福岡総合病院にて看護師として勤務経験あり。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	保育園における事故防止の必要性/危険予知プログラム	保育園における安全管理の必要性とリスクマネジメントを学び、危険予知プログラムに取り組む。
2	乳幼児の事故/保育園での死亡事例	事故の定義と種類、死亡事故について学ぶ。誤飲チェッカーを通るものを調べる。
3	保育園での事故/子どもの性格および母親の考えと事故	事故の実態と遊具で発生した事故事例について調べ、子どもの性格との関係性について考える。
4	心肺蘇生法と気道異物除去	心肺蘇生法・気道異物除去を習得する。
5	応急手当と受診のめやす	応急手当の方法を習得し、病気の際の看護と受診の目安について学ぶ。
6	アレルギー	アレルギーについて学び、エピペンの使用法を習得する。
7	保育園での事故対策/保育園における幼児教育	保育園における安全管理の現状を知る。保育園における幼児教育について学ぶ。
8	実習時に学び得たこと	実習を振り返り、学んできたことをまとめる。

9	事故の特性と主な事故パターン	事故の特徴と事故パターンをまとめ、防止策を考える。
10	事故防止のためのチェックリスト	リスク対策を学び、各年齢のチェックリストの確認をする。
11	事故防止対策の現状/事故防止対策実施についての自己点検	事故防止対策の現状を学び、前回のチェックリストを振り返る。
12	事故の要因分析	事故分析の必要性を学び、事故対策を考える。重大事故の届け出について学ぶ。
13	修得確認	前期の内容についての修得確認試験を受ける。
14	前期まとめ	前期のまとめをする。
15	前期まとめ	前期のまとめをする。
16	事故発生時の対応とトラブル防止	事故発生時の対応の重要性を認識し、トラブル防止のためにできることを考える。
17	子どもの発達と事故/保護者の保育園に対する要望と考え	子どもの年齢と行動特性からどのような事故が起こりやすいのかを考え、保護者対応を学ぶ。
18	保育園から家庭への事故防止支援策	保育園用事故防止プログラムについて学び、家庭への事故防止支援をすることの意味を考える。
19	地域への事故防止活動/安全教育	地域への事故防止活動について学び、安全教育ができるようにプログラムを立てる。
20	保育園での安全保育	SIDS、誤嚥、溺水、食中毒、熱中症の対応について学ぶ。
21	保育園での安全保育	虐待、不審者、誘拐、園外活動、地震・火災の際の対応について学ぶ。
22	新入職員用安全保育のためのチェックリスト/安全・防犯指導	新入職員用安全保育のためのチェックリストを確認する。安全・防犯指導について学ぶ。
23	感染症	保育園での感染症対策について学び、各感染症の主症状および治療と予防について調べる。
24	感染症	各感染症の主症状および治療と予防について調べる。
25	感染症	各感染症の主症状および治療と予防について調べる。
26	消毒法/予防接種	感染症の二次感染防止のための消毒方法を学ぶ。予防接種の役割と種類について学ぶ。
27	急病時の観察チェックリスト/病気の際の看護と受診のめやす	急病時にどのようなことに着目して観察するのかについて学ぶ。受診の目安について知る。
28	修得確認	後期の内容についての修得確認試験を受ける。
29	総まとめ	後期のまとめをする。
30	総まとめ	後期のまとめをする。

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	カウンセリング		
必修選択	選択	(学則表記)	カウンセリング		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	医療保育科	2	30
使用教材	保育園・幼稚園で使えるカウンセリング・テクニック		出版社	誠信書房	

科目の基礎情報②

授業のねらい	自己理解と他者理解についての知見を深め、より良い人間関係の構築について学ぶ。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの心へのかかわり方が理解できる。 ・多様な悩みやニーズを抱える保護者への理解とかかわり方が理解できる。 ・職場での良好な人間関係の構築と良好なチームワーク作りのためのスキルを取得し、実践に生かすことができる。 				
評価基準	小テスト：40% 授業態度：60%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> ・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者 				
関連資格	心理カウンセラー初級				
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	長野雅恵	実務経験		○	
実務内容	県スクールカウンセラー勤務・某市スクールカウンセラー・某町保健課幼児健診相談・判定員・療育心理相談員として勤務経験あり。就学判定専門勤務・県巡回相談員（幼・小・中）勤務。公認心理士取得。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	保育カウンセリングの基本的な考え方	オリエンテーション 保育現場でカウンセリングが求められている（P2～4）こと背景を理解する。
2	保育カウンセリングの基本的な考え方	保育カウンセリングとは（P5～10）を理解する。
3	保育カウンセリングの基本的な考え方	よい関係をつくるために（P11～14）を理解する。
4	保育カウンセリングの基本的な考え方	傾聴－保育者が寄り添うということ（P15～20）を理解する。
5	保育カウンセリングの基本的な考え方	子どもの心の発達（P21～24）を理解する。
6	保育現場で使えるカウンセリング技法	I ベーシック－雰囲気合わせ（P26～27） II うなずき、あいづち（P28）を習得する。
7	保育現場で使えるカウンセリング技法	III 伝え返し－リフレクション（P29～31） IV ミラーリング（P32）を習得する。
8	保育現場で使えるカウンセリング技法	V わたしメッセージ（P33～34） VI リフレーミング－見方を変えれば短所が長所になる（P35～36）を習得する。

9	保育現場で使えるカウンセリング技法	VII 勇気づけ (P37～38) VIII がんばり見つけ-エンカウンター (P39) を習得する。
10	保育現場で使えるカウンセリング技法	IX モデリング-お手本 (p40) X ピアサポート (p41) を理解する。
11	保育現場で使えるカウンセリング技法	XI アサーション (p42～44) XII ソリューション・フォーカス・アプローチ (p45) を理解する。
12	子どもにかかわる保育カウンセリング	I かんしゃくがとまらない子 (P48～52) II 友だちと遊べない子 (P53～56) の理解と対応について学ぶ。
13	子どもにかかわる保育カウンセリング	III ケンカが絶えない子 (P57～60) IV 保育者になつかない子 (P61～63) の理解と対応について学ぶ。
14	子どもにかかわる保育カウンセリング	V 関心をもったり集中したりできない子 (P64～66) VI 嘘をつく子 (P67～69) の理解と対応について学ぶ。
15	子どもにかかわる保育カウンセリング	VII 暴力をふるう子 (P70～72) VIII よい食習慣がない子 (P73～76) の理解と対応について学ぶ。
16	子どもにかかわる保育カウンセリング	IX まばたき・指しゃぶりが多い子 (P77～80) X 性に関心のある子 (P81～85) の理解と対応について学ぶ。
17	子どもにかかわる保育カウンセリング	XI 発達に課題のある子 (P86～88) XII 家族が問題を抱えている子 (P89～92) の理解と対応について学ぶ。
18	保護者にかかわる保育カウンセリング	I 保護者との信頼関係 (P94～97) を構築することの意義と留意点を理解する。
19	保護者にかかわる保育カウンセリング	II かかわり方のポイント (P98～108) の理解と技術を獲得する。
20	保護者にかかわる保育カウンセリング	III 関係づくりのポイント (P109～122) を理解する。
21	保護者にかかわる保育カウンセリング	IV 親と子の関係性を支援する-子育て支援 (P123～125) の理解と支援の方法を学ぶ。
22	保護者にかかわる保育カウンセリング	V 発達障がいの子どもを抱える保護者へのかかわり (P126～128) を学ぶ。
23	保護者にかかわる保育カウンセリング	VI 精神疾患を抱える保護者へのかかわり (P129～131) を学ぶ。
24	保護者にかかわる保育カウンセリング	VII 地域のネットワークにつなぐ (P132～136) ことの理解を深ぶ。
25	保護者にかかわる保育カウンセリング	VIII 保育者と保護者で行う新しい取り組み-「おむつなし育児」 (P137～139) を概観する。
26	同僚の保育者と支えあうための保育カウンセリング	I カウンセリングは保育者の定着率アップとメンタルヘルスに役立つ (P142～144) ことを理解する。
27	同僚の保育者と支えあうための保育カウンセリング	II 保育者同士のチームワークを育む-三つのワーク (P145～147) について理解する。
28	同僚の保育者と支えあうための保育カウンセリング	III 管理者が保育者に行うカウンセリング (P148～152) IV 保育者のための専門家によるコンサルテーション (P153～156) V 保育者の定着化のために (P157～159) を学ぶ。
29	同僚の保育者と支えあうための保育カウンセリング	VI 保育者のメンタルヘルスのために (P160～164) 自分自身の心を大切にして、悩みを解決していく方法を学ぶ。
30	総括	1年間を通しての振り返りを実施する。

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実習	科目名	保育実習Ⅰ（保育所）		
必修選択	選択	（学則表記）	保育実習Ⅰ（保育所）		
		開講	単位数	時間数	
年次	2年	学科	医療保育科	2	80
使用教材	なし		出版社	なし	

科目の基礎情報②

授業のねらい	保育現場での体験を通して、保育のやりがいと責任を学び、保育の知識と技術を深める。				
到達目標	指導案を作成し、必要な準備をした上で、子どもたちの前で実践できる。 時系列に沿って、子どもたちへの留意点を踏まえた日誌を作成できる。				
評価基準	保育現場評価、実習日誌、実習準備、参加態度等を総合評価 近畿大学九州短期大学の実習評価基準に準ずる				
認定条件	・ 90時間（休憩含む）以上または、実保育時間（休憩除く）80時間以上 ・ 成績評価が2以上の者				
関連資格	保育士資格				
関連科目	教育実習、保育実習事前事後指導				
備考	原則、この科目は対面形式にて実施する				
担当教員	黒木 知恵美	実務経験	○		
実務内容	福岡市内の保育園で10年勤務経験あり。大野城市子育て支援サポーター3年。				

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実習	科目名	教育実習		
必修選択	選択	(学則表記)	教育実習		
		開講	単位数	時間数	
年次	2年	学科	医療保育科	2	80
使用教材	なし		出版社	なし	

科目の基礎情報②

授業のねらい	幼稚園での体験を通して、保育のやりがいと責任を学び、保育の知識と技術を深める。				
到達目標	指導案を作成し、必要な準備をした上で、子どもたちの前で実践できる。 時系列に沿って、子どもたちへの留意点を踏まえた日誌を作成できる。				
評価基準	保育現場評価、実習日誌、実習準備、参加態度等を総合評価 近畿大学九州短期大学の实習評価基準に準ずる				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> ・10日以上、実保育時間（休憩除く）80時間以上 ・成績評価が2以上の者 				
関連資格	幼稚園教諭免許				
関連科目	保育実習、教育実習事前事後指導				
備考	原則、この科目は対面形式にて実施する				
担当教員	中村 智子	実務経験	○		
実務内容	幼稚園教諭として勤務経験後、保育士養成の短期大学で音楽や教育系科目を担当。				

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	業界理解 II (HR)		
必修選択	選択	(学則表記)	業界理解 II (HR)		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	医療保育科	2	30
使用教材	なし		出版社		

科目の基礎情報②

授業のねらい	保育現場で必要とされる人材になるため、子どもへの関わりを理解する。				
到達目標	保育業界について理解し、保育現場で活躍できる人材になる。 ボランティア活動などで学びを実践できるようになる。				
評価基準	提出物：60% 授業態度：40%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> ・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者 				
関連資格	保育士資格・幼稚園教諭免許				
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	黒木 知恵美	実務経験	○		
実務内容	福岡市内の保育園で10年勤務経験あり。大野城市子育て支援サポーター3年。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	1年生時の振り返り	1年時の振り返りを行う。 進級生オリエンテーションの復習も行う。
2	年間行事確認・次月目標決め	年間行事を確認する。 次月の目標決めを行う。(個人・全体)
3	前月の振り返り	前月の振り返りを行い、改めて今月の過ごし方を考える。

4	三幸フェスティバルについて	三幸フェスティバルについて説明。
5	教育実習Ⅰに向けて	6月に行う教育実習Ⅰについて説明を行う。
6	今月の振り返り・次月目標決め	前月の振り返りを行い、改めて今月の過ごし方を考える。
7	教育実習Ⅰに向けて	教育実習Ⅰに向けての準備・確認を行う。
8	教育実習Ⅰの振り返り・報告	教育実習Ⅰに向けて振り返りを行う。
9	今月の振り返り・次月目標決め	前月の振り返りを行い、改めて今月の過ごし方を考える。
10	三幸フェスティバルについて	三幸フェスティバルについて説明。
11	夏休みの過ごし方	夏休みの過ごし方について考える。
12	夏休みの過ごし方振り返り 三幸フェスティバルについて	三幸フェスティバルに向けての練習。
13	三幸フェスティバル振り返り	三幸フェスティバルを終えての振り返りを実施する。
14	前期の振り返り・後期目標決め	前期の振り返りを行い、改めて後期の過ごし方を考える。
15	今月の振り返り・次月目標決め	前月の振り返りを行い、改めて今月の過ごし方を考える。
16	保育発表会に向けて	保育発表会についての説明。
17	保育発表会練習	保育発表会にむけての練習。
18	保育実習Ⅰに向けて	保育実習Ⅰにむけての説明・準備を行う。
19	保育発表会練習	保育発表会にむけての練習。

20	保育実習Ⅰ振り返り	保育実習Ⅰを終えての振り返りを行う。
21	前月の振り返り・今月目標設定	前月の振り返りを行い、改めて今月の過ごし方を考える。
22	保育発表会練習	保育発表会にむけての練習。
23	保育発表会・冬休みの過ごし方	保育発表会にむけての練習。 冬休みの過ごし方について考える。
24	保育発表会振り返り	保育発表会を終えての振り返りを行う。
25	前月の振り返り・今月目標設定	前月の振り返りを行い、改めて今月の過ごし方を考える。
26	実習報告会について	実習報告会についての説明を行う。
27	実習報告会に向けて	実習報告会についての準備を行う。
28	実習報告会に向けて	実習報告会についての準備を行う。
29	1年間の振り返り	1年間の入学からこれまでの振り返りを行う。
30	3年生での目標設定	3年生に向けての目標設定を行う。